

球磨川流域での取り組みの考え方

- ・ 河川への流出量の低減や地先での洪水被害の軽減が期待できるため、地元住民の管理負担や土地利用状況・内水状況等を考慮したうえで、地域一体での取り組み体制を構築し、田んぼが広がる上流域で取り組みを推進。
- ・ 対策を実施するにあたり、制度面への意見があれば関係機関で検討する。
- ・ 具体的な実施箇所や対策の内容について関係機関で検討する。

1. 球磨川流域の水田の状況

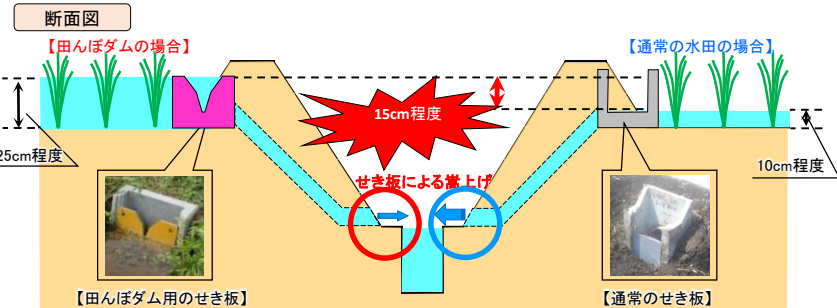
○水田の利用状況について

- ・ 球磨川流域には、整備することにより雨水の貯留を見込める可能性がある水田が約3,300ha※存在し、球磨川流域に占める割合は約1.8%である。※R2.12熊本県調べ
- ・ せき板設置等により深さ0.15m※の貯留を考慮すると約500万m³の貯留施設となる可能性がある。
※「土地改良事業計画設計基準及び運用・解説」等による

2. 「田んぼダム」の仕組み

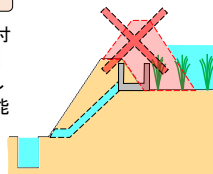
○田んぼダムの仕組みについて

- ・ 水田の排水樹に流出量を調整するせき板を設置して、水田の雨水貯留効果をフル活用。



参考：畦畔の高上げについて

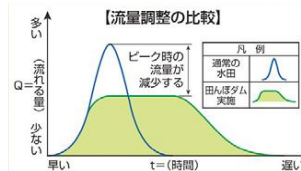
畦畔をさらに嵩上げすると、作付面積の減少や維持管理の負担増に加え、水稲が完全に水没し収穫に大きな影響を及ぼす可能性がある。



3. 「田んぼダム」の特徴・利点

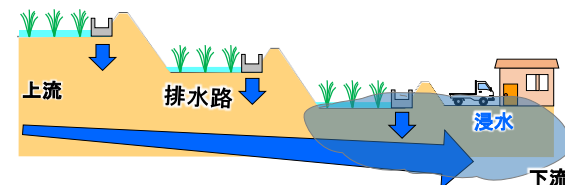
○大雨時に水田からの排水量を抑制

- ・ 雨水をできるだけ水田に貯留することで、ピーク時の流量を減少させ、水田からの流出が緩和。



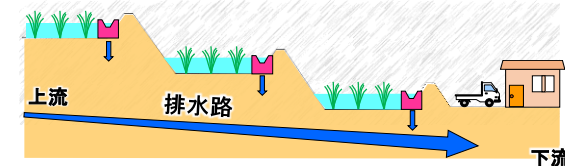
通常の水田の場合

ゲリラ豪雨や想定外の豪雨時には、下流に浸水被害が発生。



田んぼダムの場合

水田に雨水を貯留し、排水路への流出を遅らせ浸水を防止。



○すぐに取り組める仕組み

- ・ 現在の排水樹を利用でき、専用のせき板を設置するだけで田んぼダムに。

工事不要!



負担少!



令和3年度出水期までの取組み

- ・ モデル地区を選定し、せき板を配布

令和3年度出水期以降の取組み

- ・ 令和3～4年度に実証実験を行い、効果を検証
- ・ 令和3～4年度に地域一体となった取組みに向けた課題検討

スケジュール(案)

- ・ 令和5年度以降、人吉・球磨地域への普及拡大

実施機関

熊本県市町村